

平成 29 年 7 月 1 1 日

読書会資料

教育論文の 書き方について



算数・数学科指導員

畔柳 英徳

永井 利昌

目次（今回の流れ）

- 本時のねらい
 - ・論文を書いてみたいなという気持ちをもつことができるようにする。（興味・関心）
 - ・論文を書く価値が分かる。（考え方）
 - ・論文を書くときの記述の仕方が分かる。（技能）
 - ・論文を書くときのポイントを知る。（知識・理解）
- 準備 資料「教育論文の書き方について」「優秀論文」
- 本時の展開

| 段階 | 参観者の活動 | 指導員の活動 |
|------------|--|---|
| 導入 (5) | 1 なぜ、論文を書くのか考える。 2 本時の課題を知る | <ul style="list-style-type: none"> ・指導員の経験を語り、論文を書く価値が分かるようにする。 ・本時の課題を板書する。 |
| 展開 (60) | 3 論文の読み方を知る。(5) 4 優秀論文を読み、取り入れてみたいところを見つける。(20) 5 取り入れてみたいところを発表する。(5) 6 論文の形式を知り、内容ごとの書き方を考える。(30) | <ul style="list-style-type: none"> ・論文を配付する。 ・論文を読む目的と読み方を確認する。 ・目的をキーワードで板書し、読んでいるときに確認できるようにする。 ・読んだ後に話し合うグループを作る。 ・机間指導の中で、発表する参観者を決める。 ・話し合いがうまく進んでいないグループには、キーワードを示し、話し合うテーマが分かるようにする。 ・発表した参加者を称賛する。(お菓子をあげる) ・論文の形式を、優秀論文の書き方を参考にして説明する。 ・自分の失敗談も取り上げて説明することで、ポイントを焦点化する。 ・最後に、書式のきまりなど、必ず守らなければいけないことを説明する。 |
| まとめ (5) | 7 本時の振り返りをする。(5) | <ul style="list-style-type: none"> ・今回の読書会アンケートを記入する。 ・「ありがとうございました」と声を掛けてくれた先生の名前を覚え、その先生が「書いたので、見てください」と今後頼まれた時には、嫌な顔をせず「いいよ」という。 |

1 なぜ、論文を書くのか

A すべては子供のため

- ・論文を書くことで授業力を高め、子供を伸ばしていきましょう。

(1) 論文を書くことで

①授業力が向上します。

- ・自分の授業を振り返って反省することは、授業力向上につながります。

②子供だけでなく、自分の成長を振り返ることができます

- ・論文はきっとあなたの「卒業アルバム」になります。

(2) 論文を書くことを目標にすると

①常に研究心をもって授業を作るようになれます。

- ・課題意識をもって取り組みます。
- ・最新情報を得ようとします。
- ・先行研究を知ろうとします。

②子供を見る目が高まります。

- ・子供の実態を捉える力が高まります。
- ・子供の実態に沿って、授業を作る力が伸びます。

③魅力ある教材で授業をするようになります。

- ・子供のやる気を高める教材で授業を進めるようになります。

④子供たちが落ち着いて授業をするようになります。

- ・よい授業は、よい学級経営につながります。
- ・子供との人間関係がよくなります。

2 論文はどうやって書けばいいのか

A 第一歩目は、ほかの人の論文を読み、自分のものにすることです。

- ・入賞した論文をいくつも読むと、書き方の共通点が見えてきます。

勤務校の先輩、総合学習センター、インターネットなど、多方面から資料を集め、読んでみてください。

3 どうやって論文を読めば、書けるようになるのか

A 次のことを意識して、審査員のつもりになって読んでみてください。

◎主張したいことが伝わってくるか。主張に一貫性があるか。

○論文の形式（章立て）とその書き方にはどんな工夫があるか。

○「めざす子供像」「研究の仮説」「研究の手だて」「研究の計画」「抽出児（生徒）」の書き方は分かりやすいか。

○実践部分の資料はどんなものがよかったか。

○実践の検証の仕方はよかったか。

5 研究論文の具体的な書き方

(1) 形式について

「これでなくてはいけない」というものはない。しかし、一般的な形式はある。

- | |
|---|
| ①研究主題 ー副主題ー (表紙) |
| ②目次 |
| ③序論 (約1ページ) ○主題設定の理由 めざす子供像など |
| ④本論 (約10ページ) ○研究の目標 仮説 方法 計画 単元構想など ○実践の様子 |
| ⑤結論 (約2ページ) ○研究のまとめ 成果と課題 |
| ⑥参考文献 |

具体的には…

| モデル① | モデル② | モデル③ |
|-------------|-------------|---------------|
| 1 研究主題設定の理由 | 1 はじめに | 1 はじめに |
| 2 研究の目標 | 2 主題設定の理由 | 2 研究のねらい |
| 3 研究の仮説 | 3 研究の目標 | 3 研究の仮説 |
| 4 研究の計画と方法 | 4 研究の仮説と手だて | 4 研究の計画 |
| 5 研究の内容 | 5 研究の計画 | 5 実践と考察 |
| 6 研究の結論 | 6 研究の実際と考察 | 6 研究の成果と今後の課題 |
| 7 反省と今後の課題 | 7 まとめと今後の課題 | 7 おわりに |
| | 8 おわりに | |

(2) 内容について

①研究主題

- ・「主題は論文の冠」論文の内容、筆者の意図を正しく、端的に
- ・主題が備えるべき3要素
 - ア 研究の目標、ねらい ○○できる子供の育成
 - イ 研究の対象、領域 ○○において
 - ウ 研究の手だて、方法 ○○することで

(例) 第50回 愛知県教育研究論文入選テーマ

- ・一人一人の考えを大切に、友達とのかかわり合いを通して考えを深める子どもの育成ー6年算数「円の面積」の実践を通してー
- ・統計的探究プロセスで考えを深める児童の育成ー3年算数 「表とグラフ」の実践を通してー

第49回 愛知県教育研究論文入選テーマ

- ・算数的活動を通して、主体的に自分の思いや考えを表現できる児童の育成を目指してー4年「面積」の実践を通してー(井田小 岩野先生)
- ・自ら考え、学び合いを通して思考力・表現力を高める子の育成をめざしてーグループトークを核にした算数科の授業づくりを通してー

②主題設定の理由

なぜ、この研究テーマが重要なのかといった、研究の価値、必要性を示す部分。次の3つの視点から、研究の価値を示したい。

主題設定の理由 3つのキーワード

- ◎目の前の子供のとらえと、教師の願い
- 社会の要請と未来の展望
- 先哲の研究との関係と、研究の経緯

←次期学習指導要領を参考にして欲しい

③目指す子供像

こんな子供に育てほしいと教師の願いが伝わる文章で、具体的にまとめましょう。
具体的には

- 五感を通して対象に関わろうとする（意欲・積極性）
- 対象を鋭く観察する（観察力・気づき）
- 疑問や課題を見つける（問題発見）
- 対象を心で接する（共感・感情輸入）
- 問題解決のために工夫する（創意工夫）
- 個性豊かに表現・伝達す（表現力）
- 友だちと助け合い・支え合う（協力・協調）
- ねばり強く追究し続ける（追究力）
- 自他のよさを認め合う（自分への気づき）
- 個性的で、自主的な判断をする（事故決定力・判断力）
- 学習の成果を生活の中に生かす（生活を切り拓く力） 等

④研究の仮説

目指す子供の姿の具現に向けて、教科の特性を踏まえた目標を設定し、どのように研究を進めていくかを明らかにしたもの。

基本的な文章例

〇〇において、△△を□□すれば、〇〇になるであろう

| | | |
|------------------------|------------------------------|----------------------------|
| 場・対象・内容等 (研究の対象の限定) | 問題把握・手だての工夫 (具体的、実践的・独創的) | めざす子供の変容 (理解力・思考力・態度など) |
|------------------------|------------------------------|----------------------------|

※より具体的な手だては、つぎの研究の手だてに書きます。ここでは次に書く研究の手だてを大きく包み込むように書きましょう。

※ここが明確になっていないとき、「研究論文」から「実践記録のまとめ」になってしまうことが多い。

「研究論文」…仮説の△△を□□すればの部分が無効に働き、〇〇の姿になったかどうかを子供の姿をもとに検証したもの

「実践記録」…子供の活動の様子を、資料等を使って分かりやすく示したもの。

⑤研究の手だて

仮説を実証するために、取り入れた授業レベルの具体的な工夫。

※ここまでの①から⑤までに一貫性があるか。一貫性が伝わる文が書けているかが大変重要である。

手だてをより具体化すること

一般的、抽象的な言葉で表現された仮説だけでは、実際の研究はできない。その仮説をもとに、実際の授業で教師が行う支援や指導の計画を設定する必要がある。これらは、「仮説を検証するための手だて」とか、「研究の方法」と呼ばれる。他県では、仮説を授業レベルで具体化したものとして「授業仮説」と呼ぶこともある。三河では、これらを「研究の手だて」と呼ぶことが多いので、今後は便宜的に「手だて」と呼んでいくことにする。この手だてが明確になっていてこそ、実証的に仮設の妥当性を検証していくことができる。ところが、この手だての設定で、次のような問題がよく指摘される。

- ① 1つ目は、手だては仮説をもとに設定されるものであるにも関わらず、仮説とのつながりが読み取れない場合がある。手だては、仮説に示された「〇〇を〇〇すれば」の部分で具体化したものとして設定される必要がある。
- ② 2つ目は、手だてが具体的でないために検証の視点がはっきりしていない場合がある。手だてを授業レベルでの教師の営みとして具体化させておくことで、実践部分において、仮説を検証する視点がはっきりとしてくる。

⑥研究の計画

単元計画（構想）を載せる。

※単元構想の立案では、子供の見方や考え方、感じ方を大切にし、子供の追究の道筋を予測しながら、具体的な手だてを教師支援として位置付けるとよい。

⑦抽出児について

手だてが有効であったかを、全員の姿から見取ることは難しい。そこで、学級の抽出児を選び、その子供の変容の姿を追ってまとめていくと、論文の説得力が高まる。実際の授業では、抽出児が最後にこんな姿になってほしいとイメージしながら進めるとよい。

※抽出児の選び方…一番できる子、できない子を選ぶ必要はない。2名選ぶなら、1名はその学級を表すような子供をえらび、学級全体の様子が伝わるようにしたい。そして、もう1名は、目指す子供像に一番近づけたいと願う子供を選びたい。どちらも、変容が分かりにくい子を選ばないようにしたい。

⑧実践部分

子供の変容を、分かりやすく伝えられるかが大切なポイントとなる。

「客観性」「具体性」のある文章を心がけて書く。(先生の感想は要らない)

ア 作成の手順

作成の手順はさまざまであるが「いきあたりばったり」で書くのではなく、全体像を見通して書くとよい。

| 手 順 | 留 意 点 |
|---------------|---|
| ① 資料の収集 | 授業の様子が分かる資料を収集する。 (授業記録、学習記録、生活日記、写真教師メモなど) |
| ② 子供の記録の分析・整理 | 資料から何がまとめられるか。 厳しく、客観的に考察する。 |
| ③ プロット(項目)作り | 【内容プロット】教師の手だてでプロットを作る。 例・「意識のずれを明確にする板書構成」など。 【状況プロット】子供の意識や姿でプロットを作る。 例・「図のよさに気付いた児童A」 |
| ④ ページ割り振り | 論述の中心を考え、軽重を付けてまとめる。 |
| ⑤ 論述の吟味 | 教師が講じた手だての有効性という視点でまとめる。 子供の姿(特に抽出児の姿)で分析する。 |

イ 資料について

資料は、授業や子供の活動の様子が分かるものを用いる。研究内容と関係の無い写真は使わない。必要な写真を精選して使いたい。

| | |
|------------|---|
| 学習記録・メモカード | 子供のノートや授業プリントの記録は効果的である。 授業の振り返りなども検証に効果的である。 スキャナーで取り込み、貼付してもよいが、読みにくい場合は打ち直してもよい。 |
| 教師メモ | 子供の様子や、教師の思いを、教師が綴ったもの。 |
| 生活記録 | 子供の日記。 |
| 授業記録(C T表) | 授業中の教師、子供の発言や様子の記録 番号をつけると、本文の中で引用しやすい。 本文で引用する重要な発言には、下線を引くとよい。 |
| 座席表 | 子供の意識や様子を座席表に表したもの。 |
| 写真 | 活動の様子や、動きや作品の変容、板書などを記録したもの。 |

※写真の大きさにも配慮を。写真は… 授業記録は

※貼付する場所にも配慮を。基本右側。

※資料なので、文字数にはカウントされない。

※本文で引用する資料が、本文と同じページにあるようにする。

ウ 本文の書き方

実践報告ではなく、研究の成果を明らかにするように書く
資料のどこから子供の変容を述べているかが明らかにされている。
手だての有効性、仮説の妥当性を子供の変容する姿から検証しようとする姿勢で書く

- 事実を述べている分と、解釈を述べている部分を区別するとよい
→一文が3行を超えるような長い分は、読みにくい。短い文にすれば自然と分けられる。
- 仮説を肯定する事実だけでなく、肯定も否定もしない事実、否定する事実も取り上げるとよい。
→否定することがあっても、論文の価値が下がるわけではない。
- 「このような事実」があり「自分の見解はこうです」という自説を確立するように書くとよい。
- 資料についての、自分なりの解釈を述べる。「〇〇だから〇〇と考えられる」。

⑨ 考察と今後の課題

仮説が複数ある場合は、段落に分けてそれぞれについて検証するとよい。

- 子供の姿（作文や記録等）で簡潔にまとめる。
- 実践から見てきたもの（わかったこと、課題となったこと）を明らかにする。
- 仮説の妥当性が述べられているかという視点で書く。
- 研究のまとめ…持論の主張を簡潔にまとめる。研究との相違点があれば、指摘し、新しい知見が得られたときは、列挙する。
- 今後の課題 …一連の研究の反省を研究仮説、研究の内容と方法の両面から明らかにする。自分の研究によって、何が分かり、何が問題点として残ったか明確にする。

6 これだけは守って欲しいこと

- 資料の文字数は必ず守ること。このような決まりを守らないと、価値が無くなる。
→14 ページ目に参考文献をかく。教科書、学習指導要領も書く。
→資料には番号をつけ、本文の中で必ず引用して使う。
→資料の内容が分かるように、資料番号のあとにコメントを入れるとよい。
→資料は規定内の枠からはみ出さないようにする。
→写真は、写りのよいものを使う。ぼやけているものは避ける。
→本文は黒字。必要ならアンダーライン。
→授業記録を本文の中に取り入れるとき、矢印で示さない。番号で示す。

<参考文献> 「教育研究論文の書き方」 塚谷保先生平成 27 年度読書会資料
「算数・数学授業探究 教育論文 2 1」 岡崎市算数・数学教育研究部編